

# 福島第一原発事故と これからの美浜町のあり方について

森と暮らすどんぐり倶楽部  
代表 松下 照幸

福島第一原発事故の第一報は、地震直後のテレビ報道で知りました。その日は美浜町で農機具販売店のイベントがあり、テレビに釘付けになっている人のかたまりから「うわあっ!」、「おおっ!」というどよめきが上がっていました。

何事かと思いきよそこへ行きますと、地震による津波の映像が映し出されています。福島第一原発が被災したことも伝えられていました。「これは大変なことになる」と直感しました。地震の大きさと津波の威力が、私の「老朽化」した頭を直撃しました。すごい衝撃です。

それ以降、連日の原発事故報道となりました。津波の被害状況が様々な場面を映し出し、福島第一原発の水素爆発(推定)が伝えられると、体が硬直しそうになるほど緊張しました。チェルノブイリ事故の後、「これが美浜町の未来だ!」と心の中で叫んだのと同じ感情がよみがえりました。

私の親戚で法事があり、方丈様の隣の上席に座らされました。酒が入り皆さん饒舌になり始めると、方丈様が熱心に福島事故の実情について私に質問をされました。丁寧に受け答えをしていますと、右隣にいた親戚の方が私に語りかけてくれました。「実は、ワシは長いこと原発で仕事をしていた」と打ち明けてくれました。「いつかこういうことになると思うとった」とも付け加えました。原発建設時に「しゃぶしゃぶのコンクリート」を打つ工事の状況などを詳しく語ってくれました。

親戚の方でありながら、今までは話したこともありませんでしたが、この事故を通して私と繋がりました。全てを記すことは出来ませんが、原発が様々な曰くの上に成り立つ危険な設備であることを改めて感じさせられました。

美浜町で市民運動として唯一、公然と原発に反対している私を多くの方は知っています。「松下さん、あんたの言うてきた通りになったなあ!」と、年配

の方が私を見つけて語りかけてくれました。この方も親戚の人で、同じ法事の場合での会話でした。

福島事故の話題は、この法事の一例を知るだけで想像できますが、美浜町内で沸騰しています。「次は美浜町だ!」という不安が、町民の声となって雨後の竹の子のようにあちこちに出始めているのです。

関西電力、日本原電の安全PRが連日新聞折り込みされ、関西電力は町内全戸をまわって「関電の原発は安全」を繰り返しています。先日(4月18日)当倶楽部を訪れた美浜町議会議員の方は、「関電の原発は安全」と我が家の嫁殿に伝えたそうです。外仕事をしていた私に嫁殿からメールが入り、「〇〇が来て関電の原発は安全と言っている。早く店へ帰れ!」という内容でした。嫁殿同様、私も非常に立腹し、「議会で賛否両論を公平に聞かずに、一方的に安全を語るな!」とブログで厳しく糾弾しました。

関電の一方的な安全説明を受けて納得するような議会では、その存在価値を疑われます。1億円近い美浜町の自主財源を使って、議会の経費をまかっています。名古屋市長と名古屋市民が議会改革を訴えるのと同じ状況が、美浜町議会にもあると言えます。

一つの課題に対し賛否両論があれば、その双方の主張を聞いて判断するのは常識中の常識です。それが出来ない議会なら、ない方がましです。美浜町議会議長に私の意見も聞くよう申し入れてあるのですが、何の音沙汰もありませんので、議長に電話を入れて、私の要請をどのように受け止めているかを問いました。「事故が落ち着くまで待ってくれ」とのこと。もし、私の声に耳を傾けないようであれば、各議員宛にアンケート調査を行って、福島事故に関する考えを問いただし、「森の国から」で公表したいと考えています。

◇

福島事故以前は、森と暮らすどんぐり倶楽部で原発に関する申し入れをすることはありませんでした。しかし、福島事故以降は変わりました。過去には個人的嫌がらせがたくさんあって、事業に影響が出るのではないかと考えていたのですが、「そんなことで躊躇しとったらあかん！」という強い思いが生まれたのです。

美浜町民の反応に背を押されたということもありますが、福島事故の影響で様々な産業が圧迫を受けており、もう黙ってはいられないと考えるようになりました。関電という、美浜町では絶対的な影響力を持つ独占企業に、アリのような小さな事業体であっても、歯をむいて対峙しなければこの状況を変えられないという思いです。

全国の支援者のカンパをいただいて、当倶楽部は「森の国から」を美浜町で発行しています。4200部を美浜町内全紙に折り込んでいます。B4用紙の一面は森の事業を語り、裏面は原子力批判を記載してきました。「森の国から」は多くの町民に読まれており、手紙で感想をいただいたり、直接に声をかけて頂いたりしています。

福島事故を受けて、森と暮らすどんぐり倶楽部として初めて関電に申し入れを行いました(後のページに全文掲載)。私達の強い意気込みです。「若狭ネットの申し入れではないのですか」とマスコミから念を押されましたが、「今後は森と暮らすどんぐり倶楽部で公然と活動を行います」と伝えました。

5月の21日(午後)には、美浜町の「はあとびあ」という施設で、「福島事故に関する現状報告と今後の美浜町のあり方について」を語り合う会を企画しています。美浜町が原発事故で被災しないためにどうしたらよいか、原発を無くした後、美浜町はどうすればよいかを、多くの町民の参加を得て語り合いたいと願っています。読者の皆さんで参加できる方がおられれば、どうぞ美浜町においで下さい。



「立地町で原発に反対して商売は成り立たない」という不文律が美浜町にあります。小さな原発立地自治体なら、ほぼ同じ状況にあると言えるでしょう。しかし私達は敢然とその不文律に立ち向かっています。どんぐり倶楽部発足以来、原発関連会社やその

下請け企業にはほとんど利用されたことがありません。意識して彼らは当倶楽部を排除しています。それは織り込み済みです。県外から、全国から、私達はお客様を求めています。そして、そのことを私達は誇りにさえ思っています。

福島事故による被害は、全ての産業に及んでいます。日本という国に警戒感を発しているようです。食料品は言うまでもなく、工業製品にもガイガーカウンターが当てられ、放射性物質の付着に神経を尖らせています。多くの経営者は、この事態をどのように考えているのでしょうか。これだけの被害を目にしても、原子力の危険性を克服できると考えているのでしょうか。不動産会社や観光産業は壊滅的打撃を受けています。農林漁業も大変な被害を受け、先が見えません。そういう人たちは、「原発を安全に管理すればよい」と考えているのでしょうか。



私はエネルギー政策における制度的欠陥が、福島原発事故の大きな要因であると考えています。電力の地域独占が大きな弊害を生んでいます。電電公社が民営化されることで、携帯電話市場、インターネット、パソコン市場が大きく成長し、IT起業が若者を中心にたくさんの雇用を生んでいます。

電力市場は若者に閉ざされており、地方にふんだんにある分散型エネルギー市場をも閉ざしています。電力市場が公正な制度のもとに全面自由化されれば、若者の起業が盛んになり、地方の小さな資本が活性化します。送電網を公益事業として全国统一し、発電部門を競争状況に置きます。太陽光発電はピーク値に貢献しますので、高い買い取り価格設定ができます。小水力やマイクロ水力は日本という国の急峻な地形の特長を最大限に生かすことが出来ます。風力発電も、規模の経済を追求せず、人間との距離を十分に取り、低周波対策を行えば、大きなエネルギー源と出来るでしょう。さらに日本という国は温暖多雨で、植物の生長には、世界でも希な適地です。バイオマスの活用を図らない手はありません。これらの分散型電源は、持続可能なエネルギーであり、地球環境に大きな貢献をします。この買い取り価格も、高く買い取る価値があります。どうしても原子力発電を残そうというのなら、環境に放射性

物質をばらまくりスクを考え、高く課税することが条件です。石油や天然ガス発電もCO2の排出量に応じて課税すべきでしょう。環境や生活の安全といった観点で電源別に価格評価をすべきだと私は思っています。また太陽の熱、バイオマスの熱エネルギー利用は今すぐにでも利用可能です。生活で使うエネルギーの中で熱エネルギーは重要な位置を占めます。日本の熱を使うインフラはゼロに近いので、大いに期待できます。



これらの分散型エネルギーは、地方にはたくさんあるのですが、それを活かそうとしないのが電力の地域独占です。あろうことか、「お前達には電気を作らせない」という電力会社と国が結託して、都市部でたくさん使う電気を人口の少ない地方で発電せよと「原子炉立地指針」で定めているのです。そのうえで「電気が足りないから計画停電だ！」とすごんでいます。「電気が足りないのは嘘だ」ということが言われ始めていますが、これが事実なら重大な社会的犯罪です。

「必要なものは必要なところに作る」のが経済の原則ではないのでしょうか。日本の経済制度はそもそも競争社会で、出来るだけコストのかからない生産設備と地域特性を持って、他社と競い合うことが原則ではなかったのでしょうか。大半が自由化されたとは言え、官僚達の勝手な裁量によって、10電力の市場シェアは独占状況を容認されています。家庭など自由化対象外の電力市場では、建設中の資産を含めた固定資産や運転資本の合計の3.5% (2002年度東京電力による料金改定時の報酬率) を価格に転嫁して値上げを認める制度は未だに残っており、電力会社の莫大な利益を保証しています。

この電力地域独占制度が原発利権を温存し、不都合な真実には目をつぶり、圧殺し、今回の事故を引き起こしたと私は考えています。



福島原発事故により、美浜原発の増設は止まるでしょう。美浜原発は3基有り、いずれも古くなっています。美浜原発の真下にはC断層が直下に走っており、この断層が動いたときに美浜原発は耐えられる

のか、とても心配です。増設を止めたとしても、老朽化した既設原発を止めることが出来なければ、「福島事故」の再発を防止できません。

美浜町においても、全原発が止まれば経済的に打撃を受けます。私達はその打撃を出来るだけ小さく抑えることで、美浜町の原発をソフトランディングさせたいと考えています。5月21日の学習討論会企画は、そのような観点で行います。

当倶楽部は、次のような提案をするつもりです。美浜町は「国策ということで原発建設に協力してきた」のだから、福島事故を契機に原発を止めるのであれば、国から特別な交付金を請求すべきです。

原発を止めるという前提であれば、美浜町で発生する使用済み燃料(核のゴミと名称変更)を乾式で地上に保管するという提案ができます。核のゴミを県外に持っていくように美浜町が要請すると、騒動を県外へ搬出するようになります。原発を誘致してきた責任として、また、できてしまったものを解決する責任として、私は美浜町の廃炉跡地に地震・津波対策を行った上で核のゴミを保管すべきであると考えています。そしてそれを受け入れる条件として、交付金を支払うようにするのです。

また、それだけでは麻薬のような「原発経済」から自立できないでしょう。特区制度を利用した美浜町の活性化案を要求すべきです。たとえば、自然エネルギー推進のための特別な制度設計を行い、高い価格で全量を買取る方法を導入することも可能でしょうし、加えて、自然エネルギー推進の会社を税控除等で特別支援することで誘致することなども一案ではないでしょうか。私の住む新庄地区でマイクロ水力発電を行ったり、美浜町農協が農業用水を使って発電したり、荒廃田にソーラーパネルを敷いて売電することも出来るでしょう。



原発を止めるときには、美浜町が国とシビアな交渉を行うことが必要です。「町民の安全を守るため止める！」ことを「旗」に掲げれば、大きな力となります。広範囲な風下地域の人たちと手を組み、敦賀半島の原発を読者の皆さんとともに全廃していきたいと願っています。

関西電力株式会社 八木社長 様

## 福島第一原発事故に関するの申し入れ

森と暮らすどんぐり倶楽部

東北地方太平洋沖地震は、福島第一原発のバックチェックによる設計用基準地震動 $S_s$ を一部で超える大きな地震動をもたらし、直後の巨大津波で全交流電源喪失という深刻な事態をもたらし、福島第一原発1号機から4号機までが重大事故を引き起こしました。1号機から3号機に至っては炉心溶融事故が起き、溶融炉心の一部が压力容器の底へ落下し压力容器を蝕み続けていると推定されます。格納容器内や建屋内に流出し貯まった6万トンもの放射能汚染水が極めて強い放射線を出し続けているため、今なお事態収束が困難を極めています。4号炉の使用済み燃料プールの冷却能力が失われ、燃料棒の水・ジルコニウム反応による水素爆発が発生したと報じられています。大変な事態です。

「想定外の津波が来た」と責任逃れをしようとしています。東電は、貞観地震による大津波が再来する危険を原子力安全・保安院審議会で指摘されながら、中間報告ではこれを無視し、最終報告書に反映させるとしながらサボタージュしていました。数年前に13mを超える大きな津波の発生確率も検討し、かなり高い確率を予測しておきながら、手を打たなかったことも判明しています。何ということでしょう。

今回の「地震動の揺れ」が福島第一原発にどのような損傷を与えたかについては、津波の報道に埋もれて詳細な情報がでていませんが、地震の揺れを現わす最大応答加速度(暫定値)が設置許可時はもとよりバックチェック後の耐震設計の基準値をも上回ったことが福島第一原発および女川原発で確認されています。福島第一原発においては、強い地震動が重要設備の損傷による冷却水喪失事故を引き起こし、格納容器の内圧を高めた可能性が指摘されています。発電所地下の構造物も破壊され、炉心や使用済み燃料貯蔵プールへ注入・放水された水が高濃度の放射能汚染水となり大量に海へ流れ出ています。

耐震設計には「安全余裕があるから大丈夫」、「複数系統や多重防護システムがすべてつぶれることはあり得ない」と、国や電力会社は言ってきましたが、その結果がこの様です。震源断層による地震動を過小評価し、津波の恐れを知らず放置してき

たことが、今回の事故の大きな要因でした。

関西電力美浜原発では、福島のような「津波による事故は起きない」と主張していますが、とんでもない話です。確かにプレート境界で発生するような津波は来ないかもしれませんが、地域の伝承では大きな津波の傷跡が語られています。関西電力の原発の津波対策はゼロに等しいですから、数mの津波でも大きな被害を受ける可能性があります。

美浜町を戸別に回った関西電力の説明では、明確な事故想定を示さずに「安全である」ことを主張しています。美浜町の人たちは、関西電力が「原発に都合の良いことばかりを並べ立てているのではないかと疑っています。面と向かって関西電力の説明員には言わないでしょうが、地域の集まりなどでは福島原発事故のことで話題が沸騰し、「次は美浜だ」と心配しています。

以上の理由により、私達は下記の項目について申し入れを行います。文書による早急の回答を求めます。

### 記

1, 脆性破壊の危険が高い美浜1号機を即刻廃炉にすること

美浜1号機の脆性遷移温度が100°C近くまで上昇している。地震動の揺れにより一次系の小口径配管等が破断した場合、高圧下でECCSの冷水が注入される。その結果、原子炉压力容器が瞬時に破壊される危険性がある。脆性破壊が絶対に起きないと確信できるか。

2, 美浜原発直下に潜り込むC断層の地震動評価が、過小評価されていると考える。直下の地震動評価について、詳細な説明と資料を求める。

美浜原発直下に潜り込むC断層の揺れは、より大きな地震動(上盤効果)と地盤の隆起を伴う。この地盤の変形や敷地内に存在する断層または破碎帯の挙動により建屋が基礎ごと破壊される危険性がある。

岩手・宮城内陸地震(M7.2、2008.6.14)の震源地近傍に位置する一関西で観測された極めて大きな

地震動に、美浜原発が耐えられることを証明することが最低限必要である。

3、敦賀半島周辺の断層群により、敦賀半島の3原発サイトはM8クラスの大地震に襲われる危険性がある。その地震動と津波に美浜原発は耐えられるか。

「大陸棚外縁～B～野坂断層」(M7.7)、「和布一干飯崎沖～甲楽城断層」(M7.8)およびその関ヶ原断層までの延長断層帯(M8.2)による強い地震動が考えられる。美浜原発を襲う地震動の「想定」は、地震調査研究推進本部による断層モデルを用いたものだが、このように長い内陸地殻内の震源断層による地震動評価は地震学においても未解決の分野である。このような「想定」により、これらの断層帯により将来起こるとされる地震動に美浜原発が耐えられると考える根拠は何か。

関西電力は津波対策を何もしてこなかったということであるが、それはどういう理由によるのか。「想定」を超える大きな地震動とともに「想定」を超える大きな津波が来たらどうなると考えているのか。「想定は超えられない」と主張するのであれば、その根拠は何か。

4、国内の同一の断層帯による地震規模を評価するに当たって、中央防災会議は国内地震データから独自の経験式を作成し、武村の式や島崎の式に近い地震規模を想定しているが、原子力側は地震規模が最も低く算出される入倉の式を採用し、かなり小さめの地震規模を想定している。これはどういう理由によるのか。

国内で多くみられる横ずれ断層では断層幅が短く、断層面積が小さいため、入倉の式では地震規模が過小評価される可能性がある。これを知りつつ、地震規模の評価に入倉の式を採用するのであれば、「耐震偽装」と言われても仕方がない。

5、老朽原発に過酷な運転を強いる計画を見直し、30年を超える原発の運転停止を強く求める。

40年を超え老朽化した原発の寿命延長、高浜3・4号炉でのプルサーマル、運転しながらの検査・保守・修理の導入、長期連続運転、定期検査期間の短縮など、関西電力は安全性を軽視し、経済性の追求を行ってきた。

その結果として美浜2号機事故があり、11名の死傷者を出した美浜3号機事故がある。事故発生の際

に「二度とこのような事故は繰り返さない」という誓いは、運転を再開するための方便ではなかったのかと思わざるを得ない。

6、敦賀半島の原発6機が、地震を契機として福島第一原発事故と同レベルの事故を起こしたと仮定すると、放出放射能による被害は福島事故と比べられないほどの広範囲に及ぶと推定できる。関西電力はこの点についてどう考えるか。

太平洋岸に位置する福島第一原発は、放出放射能の大半が偏西風の影響を受けて太平洋上に飛んでいく。ドイツのCGによるシミュレーションを見れば明らかである。

敦賀半島の原発事故による放出放射能の被害は、日本列島を縦断しながら拡散される。関西の市民グループと私達の仲間が敦賀半島から冬季に飛ばした風船の行き先は、岐阜県から長野県の範囲で北上し、遠くは福島県からの連絡があった。昨年には敦賀半島から秋季に風船を流したところ、遠くは太平洋岸から連絡が届いた。津軽海峡を越えたことが分かる。大変な拡散範囲である。

7、原発の主要な耐震対策として、サポートなどの支持構造物を設置し、設備の共振周波数を短周期側へシフトさせる耐震工事を行って来た。近距離の位置で大きな地震が起きると、短周期の強い地震波が原発を襲い、その対策は逆に危険となる。関西電力はこの点に関し、どう考えるか。また、支持構造物が地震動で損壊すると、支持されていた機器の周期が長くなってより大きく振動し、カタストロフィックに振動が激しくなって機器・配管類が破壊される恐れがある。関西電力はこの点を「想定」していないのはいいか。

「大きな地震が起きないところに原発をたててきた」と、私たちは何度も説明を受けてきた。しかし、美浜原発では、C断層や白木～丹生断層などによる直下地震や極近距離地震が想定されるようになり、比較的近距离で「大陸棚外縁～B～野坂断層」によるM7.7の地震も想定されるようになった。関西電力はこれをどう反省しているのか。

今回のように遠くで起きる大きな地震でも、基準地震動を超える地震動が福島原発や女川原発を襲った。これをどのように考えるか。また、長周期の地震動で原発の細長い構造物は破壊されるのではないか。

以上